



世界遺産登録推進シンポジウム2023  
『立山砂防国際シンポジウム』  
-日本固有の防災遺産 立山の防災システムを世界遺産に-

- 日 時：令和5年10月21日（土）13：30～17：00
- 会 場：富山国際会議場 メインホール
- 主 催：富山県世界遺産登録推進事業実行委員会

～プログラム内容～

- ◆講演：『日本の世界遺産の動向  
～遺産形成と推薦へのアプローチ～』  
下田 一太 氏（筑波大学大学院准教授）
- ◆「富山県の立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」報告
- ◆パネルディスカッション

令和5年10月21日（土）、富山国際会議場メインホールにて「-日本固有の防災遺産 立山の防災システムを世界遺産に-」というテーマで世界遺産登録推進シンポジウム2023「立山砂防国際シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムでは、世界遺産の最前線で活躍する専門家達による、防災遺産として立山砂防の価値や評価についての講演やパネルディスカッションが行われました。立山砂防の顕著な普遍的価値や魅力、さらにこれからの世界遺産に求められる価値について議論がなされました。

主催者挨拶

新田 八朗  
（富山県知事）



来賓挨拶

草野 慎一 氏  
（国土交通省 水管理・  
国土保全局 砂防部長）



報告

『富山県の立山砂防の  
世界文化遺産登録に向けた取組み』  
竹内 延和  
（富山県地方創生局長  
富山県世界遺産登録推進事業実行委員長）



講演

下田 一太（筑波大学大学院准教授）



講演内容

立山砂防という資産の特徴を踏まえて、世界遺産の推薦にかかる準備は「①価値を伝える仕組みづくり」、「②気候変動が世界遺産に与える影響への検討」、「③資産の保存と更新の新たな考え方」以上の3項目の取り組みが期待されると講演されました。

パネルディスカッション

- ・世界遺産登録の動向
- ・立山砂防の文化的価値と登録の意義
- ・世界遺産登録に向けた今後の取り組み

上記等の議論が  
交わされました。



コーディネーター  
西村 幸夫 氏  
（日本イコモス国内委員会顧問）



パネリスト  
松浦 晃一郎 氏  
（第8代ユネスコ事務局長）



パネリスト  
下田 一太 氏  
（筑波大学大学院准教授）



パネリスト  
呂 舟 氏  
（清華大学 国家遺産センター長）



パネリスト  
姜 東辰 氏  
（慶星大学校教授）



パネルディスカッションの様子